



▲昨年11月に宮城野区岡田で実施した植樹会。約3,000本の苗木を植えました



郡市長がさまざまな現場を訪れ、市民の皆さまの活動の様子などをお伝えします

東部地域のみどりの再生に取り組む「仙台ふるさとの杜再生プロジェクト連絡会議」が実施する植樹会に参加し、お話を伺いました。

木を植え、30年かけて育てる

東部沿岸地域に広がっていた、防風・防砂林や屋敷林・居久根などの風景。東日本大震災の津波により、これら一帯のみどりは大きく失われました。市民の手でみどり豊かな景観を取り戻し、震災の教訓や復興の記録を伝承していくため、平成25年にスタートしたのが「ふるさとの杜再生プロジェクト」です。その後、平成27年に緑の活動団体

町内会、企業、行政等により連絡会議を立ち上げ、これまでに10回の植樹会を実施し、延べ2800人が参加しています。

連絡会議会長の佐藤修さんは、「このプロジェクトは、木を植え、30年かけて育てる息の長い活動」と話されます。平成28年からは、除草や枯れた苗木の補植を行う育樹会も実施。「親子で参加される方も多く、心強く感じます。その子どもたちが30年後に自分の子どもをここに連れてきてほしいという思いで、一年一年活動しています」と、思いを語ってくださいました。

みどりが人と人をつなぐ

連絡会議の参加団体では、さまざまな特色ある取り組みを行っています。南蒲生町内会では、居久根の保全・再生や県外の高校生との研修受け入れなどを実施。芳賀正さんは、「長い期間取り組んでいくため、一人でも多くの方に参加してもらい、輪を広げていきたい」と話してくださいました。「広く市民に豊かな自然に親しんでもらい、地域の魅力を知ってほしい」と、新浜町内会の遠藤源一郎さん。同町内会では、海岸公園に面した貞山運河を舟で渡るなど、ユニークなイベントを開催しています。株式会社藤崎は、創業200周年を記念した植樹会を昨年6月に開催。同社の泉田朝一郎さんは「地域に根差した企業として、市民の皆さんと共に活動を続けていきたい」と話してくださいました。NPO法人冒険あそび場―せんだい・みやぎネットワークは、七郷小学校と連携して被災した沿岸部から採取した実生苗を育て、海岸公園

冒険広場内に植樹しました。「大きくなったみどりを見た地域の方がかつてふるさとの姿を感じられるよう、力を尽くしたい」と、同NPO法人の副代表理事を務める高橋悦子さん。「みどり」をキーワードに人と人がつながり、集う。皆さんの力が掛け合わされ、地域コミュニティの形成につながっていく取り組みなのだと思えました。

ふるさとの杜を受け継ぐ

震災で失われたみどりが、たくさん人の手によりつくられ、時間をかけながら大切に育てられています。30年の間活動を続けていくことは決して容易ではありませんが、佐藤会長の「30年後には、30年分の年輪が確実に刻まれる」という力強い言葉が心に響きます。市民一人一人の心の風景、「ふるさとの杜」を後世に受け継いでいくために、皆さんと共に一歩一歩確実に進んでまいります。

団体紹介

仙台ふるさとの杜再生プロジェクト連絡会議

平成27年発足。植樹・育樹会の企画や地域の自然を活用した催し、震災の伝承などに取り組む／【Facebook】<https://www.facebook.com/sendafirumori/>



佐藤修 会長、遠藤源一郎 さん、高橋悦子さん、泉田朝一郎さん、芳賀正さん

